

公開講座の開催報告

平成25年2月17日（日）富山駅前CICビルで、「富山の民話と楽しい絵手紙づくり」の公開講座を開催しました。

昨年に引き続き冬季の開催で、当初参加者が少なく心配しましたが、会員の皆様の力強いご協力を頂き総勢40名もの参加者があり、盛況裡に終えることが出来ました。

第一部は、奥井悦子さんの「富山の民話」の語りでした。

今年の干支に因んで“蛇のお話三題”でした。

（1）おせん落としの谷

- ・朝日町笹川に伝わるお話。幼い頃両親を亡くした“おせん”という娘は、気立てが優しく、歌も上手く、子守も上手で、村の人々から可愛がられておりました。ある時おばあさんと二人で山菜取りに行く途中、おばあさんからダメだと言われた“赤いお椀”を隠し持って、山菜を取り、その帰り道、コトコトの音とともに“おせん”の名前を呼んでおり、吸い寄せられるように山奥の方へと向いていき、谷川に架かる“橋”を渡っている途中、突然橋が折れ、おせんは谷底へと落ちてしまった。

丸太と思った橋が大蛇で、おせんの歌声が聞こえる方向へ赤いお椀も消えて行った。

（2）大蛇退治

- ・旧山田村での実話の話。天保15年（170年前）山田温泉近くの鎌倉地区に八郎兵衛という大地主がいた。ある時土地の見回りを終えて自宅に帰ったところ、家の2階までの大蛇がいた。大蛇は2階の“かいこ”を狙っていたらしい。

八郎兵衛と使用人7~8人で大蛇を退治した。大蛇は太さ6m、長さ20mもある大きさと、燃やして川に流したが、中から人の指3本出てきたという。村人が喜びその噂が遂に富山の殿様の耳に入り、殿様へお話することとなった。

殿様からのお礼に戴いた“大蛇の絵画”が現在も家宝として残っている。

（3）大蛇のお産

- ・旧大山町に伝わる話。立山町の医者（仁衛門）の処へ、深夜若い者が呼びに来た。

迎いの籠に乗せられ向かった先は、大変豪勢な御殿のようであった。

無事にお産を済ませて帰ろうとした時、帰りは歩いて帰ってくれとのことで、お産の感触といい（ウロコのような手触り）、高額の治療費の支払い申し出といい、不思議に思っ振りがえったところ、今までの家などすっかり消えていた。

蛇のお産までやるとの噂がたち、おおいに流行ったとのコト。

人を心深く惹きつけて止まない奥井さんの語りに参加者の皆さんの満足感一杯の様子でした。

第二部は、「楽しい絵手紙づくり」でした。

- ・講師は昨年と同じ、大丸満美子さん、八木京子さん、垣地悦子さん（当会員）でした。
- ・絵手紙の描き方、色付けのポイント、練習などありました。
- ・講師の皆さんの熱意と参加者の皆さんの意気込みと相俟って素晴らしい講座となりました。

以上事務局からの報告でした。